

3 生命のつながり②メダカのたんじょう（指導時期6～7月・8時間）

★：その学年で特に育成を目指すべき問題解決の力を意識した内容です。

◆：その時間で学習する活動内容です。

単元の目標

魚を育てる中で、卵の様子に着目して、時間の経過と関係付けて、動物の発生や成長を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を養うことができるようにする。

●魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中のようにすが変化してかえること。

●動物の発生や成長について追究する中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

小単元	時	学習内容	観点別評価規準例
メダカのたまごの変化	1 2	○メダカを見て、気付いたことを話し合う。 ○メダカを飼って観察する。	【態度】 魚の発生や成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 〈行動観察・発言分析・記述分析〉 【知・技】 魚には雌雄があることを理解している。 〈発言分析・記述分析〉
	3 4 5 6 7	○メダカは、卵の中でどのように変化してたんじょうするのかを調べる方法について、計画を立てる。 ★ 計画 ○双眼実体顕微鏡（または解剖顕微鏡）の使い方を知る。 ○メダカの卵の中の様子を、変化したところを比べながら調べる。 ◆ 観察	【思・判・表】 魚の発生や成長について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 〈発言分析・記述分析〉 【知・技】 魚の発生や成長について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 〈行動観察・記録分析〉

		<p>【思・判・表】 魚の発生や成長について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 〈発言分析・記述分析〉</p>
	<p>8 ◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。</p>	<p>【知・技】 生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえることを理解している。 〈発言分析・記述分析〉</p> <p>【態度】 魚の発生や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 〈行動観察・発言分析・記述分析〉</p>

【準備物】

メダカ（雄と雌）、メダカのたまご、水槽、小石、水草、水温計、メダカの餌、汲み置きの水、
〔ペットボトル（2 L）、セロハンテープ、カッターナイフ〕、〔ペトリ皿〕、観察カード、色鉛筆、
双眼実体顕微鏡（または解剖顕微鏡）、袋（ジッパー付き）、〔スライドガラス、シリコンゴム板（厚さ1 mm）、穴あけパンチ〕